

群 教 七	G 02 - 02
	平 16. 221 集

地域の社会的事象を複数の観点から とらえる力を育てる指導の工夫

- 関係マップから自分の考えを見直す活動を通して -

特別研修員 奈良 明 (新田町立生品小学校)

研究の概要

本研究は、小学校社会科の問題解決的な学習の過程において、各自が調べた事実の中で関連するものを線で結び、その理由を考え話し合う活動を通して、地域の社会的事象を複数の観点からとらえる力を育てることを目指したものである。つかむ過程では事象同士の関連を予想し、追究する過程では各自が調べた事実について関連が深い課題の者同士で関連を考え、深める過程ではすべての課題の関連を考えられるように指導の工夫を行った。

【キーワード：社会 - 小 関連図 地域学習 問題解決学習】

主題設定の理由

今日社会の変化に伴って、その変化に自ら対応する「生きる力」を児童に育成することが重視されている。社会科において「生きる力」をはぐくむためには、児童が、社会的事象に関心をもって進んで追究し、社会的事象を比較したり関連づけたりして考えさせることで、社会的事象の意味や働き、相互の関連に気付かせる授業への改善をしていく必要がある。

児童の実態を見てみると、自分が興味・関心がある課題について調べる学習は、多くの児童が好きで、意欲的に取り組んでいる。調査・見学、聞き取りなどの学習でも、様々なことをメモする様子が見られた。しかし、次のような課題が考えられる。自分が調べたいと思った学習課題を調べて発表できたことで満足してしまう、調べて分かった事実に自分とのかかわりの面から考えをもち、その考えを表現することは十分できない、地域の社会的事象を成り立たせる条件(人やもの)の間に関連があることまで考えられていない、地域の人々が住みよいくらしをするためにしている工夫や努力など、社会的事象の意味や働きまで考えることができる児童は少ない。以上 ~ の原因は、体験や調べる活動に多くの時間をかけすぎたことや事象同士の関連や意味や働きについてまで考えさせる活動をあまり取り入れてこなかったことが考えられる。そのため、児童も、事実を断片的に知るだけで、分かったと思ってしまい、調べたことを振り返り自分の考えをもつことに必要性を感じていないのである。このような実態を改善するためには、問題解決的な学習の過程で考える場面を意図的に設定したり、調べたことの発表を聞く中で、お互いの考えを比較・関連づける活動を取り入れたりする必要がある。

そこで、本研究では、地域の社会的事象を複数の観点からとらえる力を育てるために、関係マップをもとに自分の考えを見直す活動を取り入れることによって、事象相互の関連について考えを広げていくことができると考えた。まず、つかむ過程では、地域の事象同士の関連を予想して関係マップ に表して、その予想について話し合うことによって、自分なりに事象の関連を考えさせるようにする。追究する過程では、自分の学習課題と関連が深い友達とグループになり、事象の関連を考えて関係マップ に表し、結びつけた理由について話し合うことにより、自分なりの根拠をもって事象の関連を考えられるようにする。そして、深める過程では、自分の学習課題と異なる友達の学習課題との関連を関係マップ に表し、結びつけた理由についての話し合いから自分の考えを見直すことによって、地域の社会的事象を複数の観点からとら

える力を育てることができると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

問題解決的な学習の過程で、関係マップから自分の考えを見直す活動を取り入れることが、地域の社会的事象を複数の観点からとらえる力を育てるために有効であることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

問題解決的な学習の各過程において、次のような活動を取り入れれば、地域の社会的事象を複数の観点からとらえる力を育てることができるであろう。

- 1 つかむ過程において、地域の事象同士の関連を予想して関係マップに表し、その予想についての話し合いから自分の考えを見直す活動を行えば、自分なりに事象の関連を考えることができるであろう。
- 2 追究する過程において、自分の学習課題と関連が深い友達の学習課題との関連を考えて関係マップに表し、結びつけた理由から自分の考えを見直す活動を行えば、自分の調べた事実と他の事実の関連づく理由に気付き、自分なりの根拠をもって事象の関連を考えることができるであろう。
- 3 深める過程において、自分の学習課題と異なる友達の学習課題との関連を考えて関係マップに表し、結びつけた理由から自分の考えを見直す活動を行えば、様々な関連に気付き、地域の社会的事象を複数の観点からとらえる力を育てることができるであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 地域の社会的事象を複数の観点からとらえる力とは

ここでいう複数の観点とは生産者、消費者、サービス業（売る人）などの様々な立場に立った社会的事象に対する見方・考え方のことである。そして、地域の社会的事象を複数の観点からとらえる力とは、このような様々な立場から、地域の社会的事象を成り立たせている条件の間には関連があることに気付く力のことである。地域の社会的事象は、気候、地形などの自然環境、生活を維持向上させようとしたりする地域の人々の工夫や努力、協力、国内や国外などの他地域とのかかわりなど様々な条件が関連し合って成り立つものである。しかし、多くの児童は、事象の間に関連があることに気付いていない。この事象を複数の観点からとらえる力は、繰り返し学習する中で、社会的事象を多面的に考える力につながっていくと考える。

(2) 関係マップから自分の考えを見直す活動とは

関係マップとは、自分や友達の追究した事実の中から、意味や働きの面から考えて関連がある事象と事象とを線で結ぶとともに、線の横にその関連の理由を考えて書くものである。そして、関係マップから自分の考えを見直す活動とは、各自が表したマップをもとに、確かに結びつくものなのか、なぜ結びつくのか話し合いをして、事象に対する見方の違いに気付き、自分の関連についての考えを見直す活動である。児童は、自分の考えに沿って、各自関係マップを書

き、その後結果について話し合いをし、線や理由のつけ足しをしたり修正をしたりすることで、事象同士の関連について考えを再構築していく。また、事象同士の関連を学習過程をおって表していくことによって、関連する事象や関連づける理由が増えていくことからその関連の広がり気付け、事象相互に様々な関連があることをとらえることができると思う。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い、検証する。

(1) 授業実施計画と検証計画

対象	新田町立生品小学校4年2組 (男子21名、女子16名、計37名)	単元名	いろいろな土地のくらし ～高原野菜の村(嬭恋村)～
実施期間	平成16年10月上旬～11月上旬 (全12時間)		
検証項目	検証の視点		検証の方法
見通し1	つかむ過程において、嬭恋村の社会的事象同士で関係があると思われる点を予想して関係マップに表し、その予想についての話し合いから自分の考えを見直す活動を行ったことは、自分なりに事象の関連を考えるために有効であったか。		結びつけた線や理由の記述分析を通して検証する。 ・関係マップ ・話し合い
見通し2	追究する過程において、自分の課題と関連が深い友達の学習課題との関連を考えて関係マップに表し、グループとなり話し合い、結びつけた理由から自分の考えを見直す活動を行ったことは、自分が調べた事実と他の事実が関連がある理由に気付き、自分なりの根拠をもって事象の関連を考えるために有効であったか。		結びつけた線や理由の記述分析を通して検証する。 ・関係マップ ・話し合い
見通し3	深める過程において、自分の課題と異なる友達の学習課題との関連を考えて関係マップに表し、その結果を全体で話し合い、結びつけた理由から自分の考えを見直す活動を行ったことは、様々な関連に気付き、地域の社会的事象を複数の観点からとらえる力を育てるために有効であったか。		マップやプリントの記述分析を通して検証する。 ・関係マップ ・話し合い ・学習プリント

(2) 抽出児童について

A男	社会的思考・判断力があり、「くらしと水」の単元でも事象の意味や役割、自分たちができるところまで考えることができた。本単元では、調べた事実を比較したりそれぞれの事象同士に関連がないか考えさせたりすることで、より多くの事象の関連を考えさせたい。
B子	地域の社会的事象のしくみなどについては理解できるが、事象の意味や事象同士の関係を考えたりすることまでは十分できない。本単元では、関係マップに表すことで事象相互に関連があることに気付け、調べた事実を比較したり友達の考えを聞いたりすることで関連する理由を考えられるようにしたい。

研究の展開

1 単元の考察と目標、評価規準

単元の考察	本単元は、学習指導要領、第3学年及び第4学年の内容(6)のウ「産業や地形条件から見て県内の特色のある地域の人の生活」を受けて設定されたものである。 嬭恋村は、高原で夏も涼しいという気候を生かしてキャベツなどの高原野菜作りが盛んであり、その他にも浅間山、万座温泉などの自然環境を生かして観光業にも力を入れている。平地に住む新田町の子どもたちは、山地で寒冷地にくらす人々のくらしや観光業について考える機会があまりないことを考えると、嬭恋村について学習することは、群馬県内の他の特色のある地域への関心を高め、県の特徴をつかむために有効であると考えられる。 嬭恋村に見られる多くの社会的事象は、その事象の意味や働きから相互に関連をもって成り立っている。例えば、キャベツ農家とみやげ店の関連では、キャベツに関係した商品がみやげ店で売られており、これらの商品が嬭恋村のキャベツをPRすることもできる、などである。これらの社会的事象について調べ、関連を考えることで、多様な関連に気付き、嬭恋村の人々のくらしを複数の観点からとらえることができる。また、キャベツ作りを盛んにしている嬭恋村の人々の工夫や努力、嬭恋村のよさを学習することを通して、群馬県に対する誇りと愛情を育てることができる。と考える。	
目標	群馬県内で産業や地形から見て特色のある嬭恋村の人々の生活の様子について、地形図や写真、観光パンフレット、インターネットなどから調べ、関係マップに事象の関連を表すことを通して、地域(嬭恋村)の特色やよさを様々な面から考えるようにする。	
評価規準	おおむね満足できる	十分満足できる
	【社会的事象への関心・意欲・態度】	
	嬭恋村に住む人々の生活の様子に関心をもち、事象同士の関連を意欲的に調べようとしている。	嬭恋村に住む人々の生活の様子に関心をもち、事象同士の関連をいくつもの面から意欲的に調べようしたり、群馬県に対する愛情をもつことができる。
	【社会的な思考・判断】	
嬭恋村に住む人々の生活の様子について、人々の生活と自然環境・観光業・消費者との関連を考えている。	嬭恋村に住む人々の生活の様子について、人々の生活への工夫に気付いたり、人々の生活と自然環境・観光業との関連を多様に考えたりしている。	
【観察・資料活用の技能・表現】		
嬭恋村の人々のくらしについて、写真、観光パンフレット、インターネットなどを活用して調べ、まとめている。	嬭恋村の人々のくらしについて様々な資料を活用して調べ、分かりやすく工夫してまとめている。	

【社会的事象についての知識・理解】	
嬭恋村に住む人々は、自然環境を生かして生活していることや村の社会的事象同士の間には関連があることを理解している。	嬭恋村に住む人々は、山地で寒冷地という自然環境を生かして生活していることや村の社会的事象同士の間には多様な関連があることを理解している。

2 指導と評価の計画（全12時間予定）

過程	時間	主な学習活動・内容	形態	評価項目（評価方法）
つかむ	1	・写真資料や地図、ビデオを基に、嬭恋村はどんなところなのかおまかなの様子を知る。（地形、さかんなこと、観光地など）	一斉	資料を基に嬭恋村の概要が分かる。（知：発表、学習プリント）
	2	【見通し1】 ・嬭恋村の事象同士の関連を予想して関係マップ に表す。 ・事象ごとに何と結びつけたかとその理由を発表し、関係がある理由について話し合う。	個人 一斉	嬭恋村の事象同士の関連を予想して関係マップに表すことができる。（思：関係マップ、話し合い）
	3	・自分が調べる学習課題を考える。（マップ を書いた中で関係に関心をもった事象を学習課題とする。） ・調べる視点、調べる方法を考える。（パンフレット、インターネット、電話やFAXなど）	個人	自分が調べる学習課題を決め、調べる計画を立てることができる。（思：学習プリント）
追	4 5	・自分の学習課題について調べる。 < 予想される学習課題 > 嬭恋村でキャベツ作りがさかんな理由、キャベツ農家の1年、生産量が増えているわけ、困っていることとその対策、万座などの温泉、ホテル・旅館、浅間山、鎌原観音堂、鬼押し出し、スキー場、商店（土産店、農産物直売所） 学校生活など	個人 又は グループ	自分の学習課題について調べることができる。（技：観察、発表資料） 自分の学習課題について進んで調べようとしている。（関：観察、）
	6	・調べたことを発表できるような資料にまとめる。 ・分かった事実とそれに対する自分の考えは必ず書く。	グループ	調べたことを資料にまとめることができる。（技：発表資料）
究	7	・関連が深い課題を調べた者同士で調べたことを交流し合う。（～ のグループで） [ポスターセッション] 浅間山、スキー場、万座温泉、ホテル キャベツ作り 鬼押し出し、鎌原観音堂、農産物直売所、おみやげ屋さん ・発表を聞きながら友達の調べた事実との共通点や関係がある点を学習プリントに書き込む。	グループ 個人	友達の発表を聞いて、嬭恋村の別の特色が分かる。（知：学習プリント）
	8	【見通し2】 ・自分が調べた事実と友達が調べた事実（関連が深い課題）との関連を関係マップ に表す。 ・関連が深い課題を調べた者同士で結びつけた理由を話し合う。	個人 グループ	自分が調べた事実と友達が調べた事実との関連を関係マップに表すことができる。（思：関係マップ、話し合い）
る	9	・異なる課題を調べた者同士で調べたことを交流し合う。 [ポスターセッション] ・発表を聞きながら友達の調べた事実との共通点や関係がある点を学習プリントに書き込む。	グループ 個人	自分が調べた事実と友達が調べた事実との共通点や関係がある点に気付く。（思：発表、学習プリント）
	10	【見通し3】 ・自分と異なる課題を調べた友達が調べた事実との関連を考えて関係マップ に表す。 ・どの事実とどんな理由で関係があるかクラス全体で話し合う。 ・関係マップを書いて気付いたことや考えたことを書く。	個人 一斉	調べた事実の関連を関係マップに表し、事象同士の様々な関連に気付く。（思：関係マップ、話し合い）
深	11 12	・嬭恋村のよさや特色をPRする嬭恋村新聞をつくる。	個人	意欲的に新聞にまとめようとしている。（関：観察、作品）

研究の結果と考察

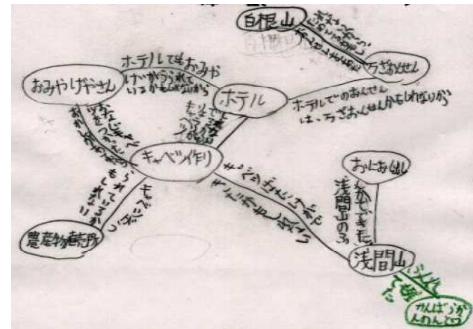
1 つかむ過程において、嬭恋村の社会的事象同士で関係があると思われる点を予想して関係マップに表し、その予想についての話し合いから自分の考えを見直す活動を行ったことは、自分なりに事象の関連を考えるために有効であったか

嬭恋村にはどんな事象があったかを思い出させ、関係マップの書き方について指導した後、まず個人で嬭恋村の事象同士の関連を予想して関係マップを書いた。関係を書いていきやすいようにキャベツ作りを中心としてマップを書かせた。関連を自分なりに予想できた事象は、最も多い児童で11個であり、多くの子は5つくらいの関連を考えていた。その後、自分の予想について意見を出し合い、関連の付け足しや修正をしていった。

A男は、「キャベツ作り」については、「農産物直売所」「浅間山」などと関連づけた。キャベツ作り以外の事象の関連については、「ホテル・旅館」と「万座温泉」などを結びつけ、嬭

恋村の事象同士を8カ所予想して結びつけた。これらは、A男がこれまでにいろいろな観光地に行った経験を想起して予想できたものと思われる。さらに、話合いの中で友達の「鎌原観音堂は浅間山の噴火と関係がありそうなことを聞いた」という発表を聞いて、「観音堂は浅間山が噴火しても残った」と考え、この関連を付け足した。A男は、合計9個の関連を理由をつけて表しており、自分なりに孺恋村の事象同士の関連を考えることができたといえる〔資料1〕。

資料1 A男のマップ



B子は、まず、孺恋村の事象同士を5カ所予想して結

びつけ、「キャベツ作り」については、「ホテル・旅館」(できたキャベツをホテルの料理で使っている)、「浅間山」(噴火でキャベツがダメになった)などと結びつけた。さらに話合いの中で、友達の「スキー場とホテルが一緒になっているのではないか」という発表を聞いて「スキー場にホテルがある」と考えてこの関連を付け足し、合計8個の関連を表した〔資料編参照〕。

以上のことから、孺恋村の事象同士の関連を予想して関係マップに表し、その予想についての話合いから自分の考えを見直す活動を行ったことは、自分なりに事象の関連を考えるために有効であったと考えられる。

2 追究する過程において、自分の課題と関連が深い友達の学習課題との関連を考えて関係マップに表し、グループとなり話し合い、結びつけた理由から自分の考えを見直す活動を行ったことは、自分が調べた事実と他の事実が関連がある理由に気づき、自分なりの根拠をもって事象の関連を考えるために有効であったか

前時までに児童は、自分が選んだ課題について調べ、自分が調べた課題と関連が深い者でグループになり調べたことを発表し合っている。本時は発表を聞いた友達の調べた事実との関連を考えて、関係マップを書く学習である。予想で書いたマップと事実をもとにして書くマップとは異なるものと考え、また新しくマップを書いていくようにした。前時に書いた学習プリントの「似ているところ」「関係があるところ」の項目や友達の発表資料も見るよう指示し、まず個人で関係マップを書いた。最も多く関連を考えた児童は、同じグループのすべての課題を関連づける(関連数6つ)ことができ、多くの児童は4つの関連を考えていた。

A男は、自分が調べた「農産物直売所」について、「鬼押し出し園」(鬼押し出しを見てから直売所に来る人がいる)、「おみやげやさん」(同じキャベツ商品が売っている)などと結びつけた。友達の調べた課題については、「おみやげやさんの発表の『どこに来た人がおみやげを買っていくか』のところを見るように」助言をすると、「おみやげやさん」と「鎌原観音堂」を「観音堂をみておみやげを買う人がいる」という理由で結びつけた。さらに、話合いの中で、友達の「鬼押し出し園と鎌原観音堂は、両方とも浅間山の噴火によってできたものだから関係がある」という発表を聞いて、この関連を付け足した〔資料編参照〕。

B子は、自分が調べた「スキー場」について、「万座温泉」(スキー場に万座温泉がある)、「ホテル・旅館」(スキーをしたあとホテルに泊まる人がいる)などと結びつけた。友達の調べた課題については、「万座温泉」と「ホテル・旅館」を「わいた温泉がホテル・旅館にいきわたる」という理由で結びつけた。さらに話合いの中で、「ホテルの発表の『どこを見た人がホテルに泊まるか』のところをみてごらん」と助言をすると、「浅間山を見てホテルに泊まる人がいる」という理由で、「浅間山」と「ホテル・旅館」の関連を付け足した〔資料編参照〕。

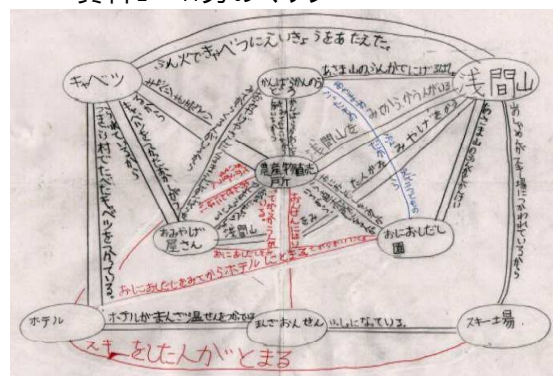
A男も、B子もマップの段階では関連があるかあやふやだったものが、自分や友達が調べた事実をもとに、確かに関連があることに気づき関連づく理由もはっきりと記述している。こ

これらのことから、自分の課題と関連が深い友達の学習課題との関連を関係マップに表し、結びつけた理由から自分の考えを見直す活動を行ったことは、自分の調べた事実と他の事実の関連づく理由に気付き、自分なりの根拠をもって関連を考えるために有効であったと考える。

3 深める過程において、自分の課題と異なる友達の学習課題との関連を考えて関係マップに表し、その結果を全体で話し合い、結びつけた理由から自分の考えを見直す活動を行ったことは、様々な関連に気付き、地域の社会的事象を複数の観点からとらえる力を育てるために有効であったか本時は、自分と異なる学習課題を調べた友達が調べた事実との関連を考えて関係マップを書く学習である。関係マップに付け足していく形で、前時に書いた学習プリントの「関係があるところ」の項目などをみながら、個人で関係マップを書き、その後、各自が考えた関連についてクラス全体で話し合いをしていった。

A男は、「キャベツ作り」と「農産物直売所」、「浅間山」と「農産物直売所」など11個(=)の関連を考えた。さらに全体で話し合いをする中で、「農産物直売所」と「万座温泉」、「鬼押し出し」と「ホテル」などの関連を付け足し、合計21個の関連を表した〔資料2〕。マップを見ると、A男は「農産物直売所」について調べ、そこから多様な事象の関連に気付くとともに、生産者、消費者、サービス業などそれぞれの立場に立って事象がもつ意味や働きを考えられたといえる。

資料2 A男のマップ



また、考えたこととして「孀恋村の人たちは、いろいろ関係し合ってくらしている」と書いており、様々な事象の関連の上から孀恋村の人々のくらしをとらえることができたと考えられる。

B子は、「万座温泉」と「浅間山」(浅間山を見た人が万座温泉に入る)、「鎌原観音堂」と「おみやげ屋さん」(鎌原を見て買いに来る人もいる)など4個(=)の関連を考えた。さらに話し合いをする中で、「浅間山」と「キャベツ作り」(浅間山の噴火で被害を受けた)、「スキー場」と「キャベツ作り」(農家の人がスキー場で働く)などたくさんの関連を付け足し、合計20個の関連を表した〔資料編参照〕。また、気付いたこととして「いろいろな関係があつてすごい、どんどん関係が出てきてきりがなかった」と書いており、B子も「スキー場」について調べて、そこから様々な事象の関連をとらえることができたといえる。

以上のことから、自分の課題と異なる友達の学習課題との関連を関係マップに表し、結びつけた理由から自分の考えを見直す活動を行ったことは、様々な関連に気付き、地域の社会的事象を複数の観点からとらえる力を育てるために有効であったと考える。

研究のまとめと今後の課題

地域の事象同士の関連を考え関係マップに表し、その結果について話し合いをしたことで、地域の人々のくらしはいろいろな立場の人が関係し合って成り立っていることや、地域の事象同士には様々な関連があることに気付くことができた。また、関連する理由を考えたことで、地域の人々が行っている工夫や努力など、事象のもつ意味や働きについても考えることができた。

関係マップはキャベツ作りとの関連を予想して書いたが、関係マップは、自分の課題との関連を考えてマップを書いた。一人一人の関連についての考えが単元を通してつながっていくように、関連の中心は同じものにして書いていく必要があったと考える。

